
第4章 組み合わせによる心理的効果の検討：設定2 - 色のビンから香りを嗅ぐ場合の心理的効果 -

第1章で、色彩と香りの組み合わせに着目した相互的影響に関するもう1パターンの先行研究として、Zellner&Whitten（1999）の研究を紹介した。この研究では、香り付きの液体を様々な着色し、色彩の濃さと香りの強さ感の相関を検討している。結果を考え合わせ、今後の課題として、色彩と香りのふさわしさにも着目した様々な組み合わせによる交互作用の検討などを挙げている。

以上を背景とし、第4章では、香りを嗅ぐものが色付けされている（第2章、第3章の研究と同じ色彩刺激を用いる為、透明のガラスビンに、匂い紙とともに色紙を挿入する形で再現した）という設定において、組み合わせによる心理的効果を検討することとした。調和関係、不調和関係にそれぞれ定義された色彩と香りの組み合わせのみならず、様々な組み合わせ条件も含め、交互作用の検討も目的とした。

§4-1では、これまでと同様の心理指標を用い、色彩ごとに比較検討した。

続く§4-2では、心理的効果における色彩と香りの交互作用を検討した。

【本章の目的】

透明のビンに任意の色紙を挿入する設定において、印象評定、気分評定の両指標から、色彩と香りの組み合わせによる心理的効果を検討する。また、色彩と香りの心理的交互作用を検討する。